

まえがき

私は、中学校や特別支援学校、盲学校（現・視覚特別支援学校）、ろう学校（現・聴覚特別支援学校）などで38年間教員として勤めて参りました。中学校では保健体育を指導し、盲学校では小学生の教科指導や教育相談、特別支援学校やろう学校では小学生から高校生までの保健体育や自立活動・職業教育の指導などに従事していました。

38年間の教員生活の中で、子どもの挑戦する意欲を引き出す方法はないかと常に考え、小さな成功体験を味わわせることで「できる喜びを自信につなげる」指導や支援の仕方を実践しました。また、努力することの大切さや努力すれば報われるということも子どもたちに伝えてきました。

私の教員経験は、身体が不自由な児童、生徒が通う特別支援学校からスタートしました。当時は指導マニュアルというものがなかったため、毎日が試行錯誤でした。例えば、身体が不自由な生徒に、どうやって体育を指導するのか……体操はどう教えられるのか、などの課

題が常にあります。この時期に「身体を動かすことが難しい生徒にどうやって教えるか」と意識し、模索し続けた経験が、現在でも指導のベースになっています。

その後、通常の中学校に勤務しました。ある中学校に赴任した際は持久走の授業で、「申告タイムトライアル」というものを実施しました。日々の練習ではタイマーを使って自分のタイムとペース感覚を身体に覚えさせ、テストではタイマーが見えないようにし、事前申告したタイムとの誤差で評価しました。

順位だと速い子に勝てなくて諦めてしまうこともあると思いますが、自己申告制だと自身がライバルになります。自分に打ち勝つことは、その子の人生においても重要な経験だと思います。生徒が一番嫌がる持久走を積極的に取り組んでほしいと思います。授業でしたが、評価においても身体的に優れた生徒がよい評価をもらえるのではなく、努力した生徒もよい評価がつかしました。結果的にはダラダラ走る生徒がいなくなり、持久走が苦手だった生徒も喜んで走っていました。

子どもたちが、「何事も努力すればできるんだ」と感じ、「自信を持たせたい」という思い

が根本にあります。盲学校の水泳の授業ではスタートの飛び込みを教えました。視覚に障がいのある生徒たちは「高いところから飛んだら危ない」と思っているので、飛び込みなんてもちろん経験がありません。ところが、プロセスを踏むとすぐにマスターし、プールへどんな飛び込んで遊ぶようになりました。

ろう学校勤務時代に野球部の顧問になった際には、ろう学校内の野球大会だけでなく、県の高等学校野球連盟（軟式野球）に加盟して大会にも参加しました。『同じ土俵で戦う』という意味で、生徒たちも張り切っていました。結果はコテンパンにやられたものの、生徒たちはすごく満足そうな表情をしていました。『努力して報われた』経験にはならなかったのですが、テレビなどで一度は見たことのあるユニフォームを着た高等学校の生徒と立派な球場で対戦した経験は、一生の宝になったのではないのでしょうか。

子どもたち楽しさを知ってもらうことが一番重要だと思います。楽しさを知れば自然に試行錯誤しますし、成功の喜びが自信になり、成長していきます。

定年退職後は、時間を趣味に費やし、ゆっくりしたいという方も多いですが、私は回遊魚のように動きを止めるとダメになってしまうのと、子どもたちいることが楽しいので、子どもたちと関わることでできる仕事を考えていました。定年前は幼稚園バスの運転手になるうと決めて大型自動車の運転免許を取得していました。

実際は今までの経験を生かし、障がいのある子どもたちと関わることでできる現在の仕事を選びました。複数の支援事業所で児童発達支援管理責任者として勤務しましたが、経営者であるオーナーと教育現場で働いてきた私とでは考え方が合わず、思いを形にするためには自分でやるのが一番だと思い、2016年11月に「児童発達支援放課後等デイサービスみらい」をオープンしました。

ベースとなるのは二つの教室で、その一つが2〜6歳を対象とした「幼児発達支援教室すくすく」。言葉を話し始めるのが遅かったり、落ち着いて行動することが難しかったりするお子様に、行動の背後にある原因を分析する、応用行動分析をベースにした支援をしています。もう一つの教室の「アフタースクールみらい」は、小学校・中学校・特別支援学校高等部の児童・生徒で、学校の勉強が難しくついていけなかったり、仲間づくりが苦手だった

りするお子様を対象にしています。授業の補完やソーシャルスキルトレーニング、パソコン学習などを通して、将来社会で働くために必要な力を身につけ、社会に出る一歩を後押しできるように支援しています。また、運動療育に特化した「みらいPlus」という教室もあります。未就学のお子様には、身体の使い方や、集団に慣れるための療育を行っています。小学生以上になると体育的活動の支援や、運動神経がよくなるといわれているコーディネーショントレーニングでスポーツの上達を目指します。

発達に障がいがある（あると思われる）お子様は、さまざまな場面で自信をなくしています。一番の味方のお母様からいろいろな言われると、やる気をなくしたり反抗したりと、二次障害につながってしまうこともあります。ほめ言葉で背中を押してあげれば、2歩も3歩も一気に進めます。支援の仕方でも子どもは必ず変わります。